

## 令和3年度 第1回瑞浪市健康づくり推進懇談会(書面会議)

### 1 議題

#### (1)みずなみ健康 21(第2次)改定版について

資料1

##### <説明>

- 令和2年度、みずなみ健康21(第2次)改定版を策定し、期間を令和3年から令和5年までの3年間とした。瑞浪市健康づくり計画 みずなみ健康 21(第2次)改定版の主要テーマは生活習慣病発症予防と重症化予防であり、その対策の一つとして30歳代健診を実施している。
- 令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、実施時期など変更をした。コロナ自体が心配、時期が違うなど原因はいろいろあるが、受診率は下がっている。
- 今までの30歳代健診、母親健康チェックなど、若者に対する健診等を振り返ると、若い世代に対する健診機会がないため、高血糖状態に気が付かないなど、血液検査結果がすでに悪くなっている場合もある。また、「やせ」が2割を超えており、やせに対する保健指導の重要性も感じている。
- これらのことから、令和3年度から、30歳代健診の対象者を20歳まで下げ、「20歳代・30歳代健診」とし、健診を受ける機会のない者に対し、早い時点から健診受診を勧めるとともに、毎年継続して健診を受けられるように健診の重要性も含めて指導を行う。

##### <意見>

- 保険者が違うので難しいと思うが、国民健康保険以外の加入者の特定健診の受診率があると、さらに市民の健康に対する意識がわかり、よいと思う。
- 若い頃から自分の身体(健康)に興味を持つことは大切です。その点で、20歳代からの健診には賛成です。周知の方法(SNSの活用等)と受診率の増加対策をよく検討する必要があります。
- 高校までは毎年1~2回の歯科健診があるのに、それ以後は自主性に委ねられる。「20歳代・30歳代」となっているが、高校卒業後の18歳、19歳にも対策が必要。持続的に健診を受け続けるとかかりが必要。例えば、「歯と口の清掃券」配布。清掃で受診した際「からだと心のチェックリスト」(市で作成・配布)の問診を実施、チェック多数で要受診のケースについては病院等と連携し、どの科に受診が必要するとよいかなど紹介、受診へとつなげるようなことを試みてはどうか。
- 歯周病検診を中止した意図は？ 歯科が感染対策を徹底し、クラスター事故がないことは周知の事実。集団検診ではなく、個別検診を勧めていく時。
- 健診等が大切だと思うことは、歳を重ねるごとに感じることであり、若い世代の人は体力

に自信があり、働き盛り真っただ中。どれだけの人が真剣に受けなければと思っているでしょうか。自分に置き換えてもわかる。そのうえ、休日に受けられないこともあり、なかなか難しいなと思います。長い目で、長期にわたって進めていくことが一番の手当てかなと思います。

- よく努力されておられると思います。

## (2)第6次瑞浪市母子保健計画について

### 資料2

#### <説明>

- 今年度、第5次母子保健計画最終年度となるため、実施してきた内容を評価し、第6次へとつなげていく。なお、母子保健計画は、健康づくり課が母子に関する事業を行う際の行動計画として立てている。
- 第5次母子保健計画では、(1)低出生体重児対策、(2)妊娠期からの母親の生活習慣病予防対策、(3)子どもの生活習慣病予防対策、(4)子どもの健全育成を大きな柱としており、健康指標として妊婦の非妊娠時のやせの減少、小学5年生の肥満傾向児の割合の減少、3歳児のう歯のない児の増加及び学童期の一人平均う歯数の減少がある。資料2に表す通り、妊婦の非妊娠時のやせは年度によって違うものの、減少。小学校5年生の肥満傾向児については、集計の仕方が変更になっており、比較をすることができない。3歳児のう歯は減少、学童期の1人平均う歯数は増加となっている。
- (1)の低出生体重児対策について詳しくデータを見てみると、低出生体重児は令和2年度増加。低出生体重児となる原因はいろいろあるが、どのような保健指導をしていくとよいのか、保健指導の内容の整理が必要である。また、20歳代・30歳代健診をうまく活用し、健診結果の振り返り(血液検査・歯周病検診等)をすることで、生活習慣の改善に結びつけることが、妊娠前からのだづくりに重要であると考えている。
- (4)子どもの健全育成については、生活リズムを整えるなど、伝えるべきことは多々あるが、なかなか効果が出ていない。保健指導の内容、方法など再検討が必要である。
- 現在、第6次母子保健計画策定に向けてデータを収集している段階であり、本日の資料は途中経過のため、これからさらに良い計画にしていく。ご意見いただければ参考にさせていただきたい。

#### <意見>

- 低出生体重児の割合が10%超えとなっていることは大変心配です。現在保健指導での対応が中心ですが、市として新たな施策が必要な時期に来ていると思います。
- 1歳6ヵ月児健診でほとんどう歯がなかったのに、3歳児健診では県平均を超えてう歯数が増えています。3歳児の年代にう歯数が多いと、4歳、5歳とよりう歯が増えていく

傾向が見られます。歯の萌出時期は人により個体差がありますが、乳切歯上下4本ずつが萌出した次には、第1乳臼歯が萌出てきます。食べ物は、授乳から離乳食、粒状、固形物へと徐々に推移していきませんが、第1乳臼歯が萌出し嵌合するまでは、絶対粒状、固形物を口に入れさせないことが必須となってきます。指導では、口腔内を診て「どの歯が第1乳臼歯で、嵌合しているかどうか」を判断、見極めるチェック方法を教えることが必要です。離乳食は液状からペースト状へと変化させていきますが、徐々に粘度をあげていくことが必要です。その実例を示しながら、第1乳臼歯接触まで辛抱強く対処させてください。失敗のできない大切な時期です。第1乳臼歯接触を乗り切れば、徐々に粒状の食べ物も食べることができるでしょう。3歳手前で乳歯列は完成します。このころになれば、固形物を食べてもよい時期となります。ですが、間違っても大人と同じ硬さにならないよう注意しましょう。歯は硬いですが、子どもの骨、筋肉は未成熟で柔らかい状態ですから。歯みがき、フッ化物利用で、う蝕を防ぐ、減らすことはできますが、上記のことも念頭に置かれご指導されてはいかがでしょうか。

- 肥満傾向もわかり、よく努力されておられると思います。
- 保健指導の必要な妊婦について、県もともに考えていきたいと思っています。

### (3)第47回 瑞浪市健康まつりについて

資料3

#### <説明>

- 健康まつりの概要並びに実行委員(案)となっている。本来であれば、懇談会にて、実行委員(案)に対し、承認を得て健康まつり実行委員会を開催するが、今回書面会議となったため、健康まつり実行委員を事務局にて選任した。

#### <意見>

- 新型コロナの治療薬が普及するまでの間、市及び実行委員会主催の健康まつりは開催しない方がよいと思います。
- コロナ禍が続く、先の見通しができません。人の集まる会合などは中止やむなし。
- 瑞浪市に宣言等発令されているときは中止、表彰については本部に一任します。それ以外は感染対策を徹底して最低限の人数で実施。
- 11月ではありますが、コロナ終息の見通しが立たない中ですので、中止をご検討ください。
- 巣ごもりで、老化・体力低下(特に女性)が心配されるころではありますが、コロナも怖い!!スローガンのように、「自分で 家族で 地域で 健康づくり」に頑張ってもらえないと思います。